東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 26 号（2021), pp.247-258.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.26 (2021), pp.247-258.

〈特集「否定，形容詞と連体修飾複文」〉

タイ語「否定，形容詞と連体修飾複文」
"Negation, Adjective, Noun-Modifying Clauses" in Thai

ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤) スニサー
Sunisa Wittayapanyanon (Saito)

東京外国語大学世界言語社会教育センター
World Language and Society Education Center, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は特集「否定，形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第 23 号，2019，東京外国語大学)に寄与する．本稿の目的は 33 個のアンケート項目に対するタイ語データを与えることである．

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on 'Negation, Adjective, Noun-Modifying Clauses' (Journal of the Institute of Language Research 23, 2019, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Thai data for the question of 33 phrases.

キーワード：タイ語，否定，形容詞，連体修飾複文
Keywords: Thai language, negation, adjective, noun-modifying clauses

1. はじめに

本稿では，『語学研究所論集』 第 23 号特集「否定、形容詞と連体修飾複文」のアンケート項目の(1) から(33) までの例文の筆者訳によるタイ語訳を掲げ，それに適宜補足説明を加える．日本語の例文(1)に対して，異なるタイ語の語順にて，比較例示すべき複数の文が考えられる場合，(1)-1，2…として複数の文を示している．それに加え，各例文を説明する目的で別の文を追加している場合は，(1)-a，b…として記載している．また，タイ語において同じ位置で日本語に対応するタイ語語彙が複数ある場合は，[…/…] とし，どの語彙を使ってもよいということ示す他，<…>で示したものは非表示とすることが可能であることを意味している．また本稿のグロスで使用している略語については，本稿末に一覧を記載している．なお，タイ語の音韻表記についてはウィッタヤーパンヤーノン(2015)に従う．

2. タイ語訳文データ

(1) 【名詞述語文／コピュラ文の否定】「これは私の本ではない．」

(1)-1

nîi	mây	châay	nǎŋsǔɯ	<khɔ̌ɔŋ>	chán
this	NEG	that is so	book	<of>	I_F

(1)-2

nîi	mây dây	pen	nǎŋsǔɯ	<khɔ̌ɔŋ>	chán
this	NEG	COP	book	<of>	I_F

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

タイ語の名詞述語文は“NP1（主語）＋[pen/khɯɯ]＋NP2（名詞述語）”という文型となる．①NP1＋khɯɯ＋NP2 は NP1 が NP2 と同一である場合に使用するのに対して，②NP1＋pen＋NP2 は NP1 が NP2 という属性や特徴を持つ場合に使用する．①, ②とも否定辞 mây[1]を用いた表現で否定文を作るが，否定文型は異なる．(1)-1 で示した NP1＋mây châyー＋NP2 は①NP1＋khɯɯ＋NP2 の否定文となり，「これ」は「私の本と同一ではない/同じものではない」という意味を持つ．(1)-2 で示した NP1＋mây dây pen＋NP2 は②NP1＋pen＋NP2 の否定文で，NP2 という属性/特徴であることを否定している．ここでの属性は「私の所有する本」となり，(1)-2 は「これは私が所有する本ではない」という意味となる．mây châyー は名詞述語を否定する場合に用い（ウィッタヤーパンヤーノン 2020），mây dây は状態や状況が実現していない場合などに用いられ，(1)-2 では pen で示された属性が不成立であることを示している．

(2) 【存在文の否定】「この部屋には椅子がない．」

<thîi> hôŋ níi mây mii kâwʔîi
<in> room this NEG exist chair

モノ，ヒトの存在を示す動詞 mii の前に否定辞 mây を置き，存在文の否定を示す．thîi を非表示とする場合，hôŋ níi「この部屋」がトピックとなり，「この部屋には椅子がないが，他の部屋ならある」という対比のニュアンスを持つ．さらに kâwʔîi「椅子」が左方転移し，hôŋ níi kâwʔîi mây mii という語順になると，椅子がトピックとなり，「この部屋には椅子はない（が，机ならたくさんある）」という対比のニュアンスとなる．

(3) 【全部否定・モノ】「この部屋には一つも椅子がない．」

(3)-1-

<thîi> hôŋ níi mây mii kâwʔîi <lɔɔy> sàk tua <diaw>
<in> room this NEG exist chair <PTCL> about CLF <only one>

(3)-2

<thîi> hôŋ níi mây mii kâwʔîi <lɔɔy> mɛ́ɛtɛ̀ɛ tua diaw
<in> room this NEG exist chair <PTCL> even_CONJ CLF only one

(4) 【全部否定・ヒト】「その部屋には誰もいない．」

(4)-1

<thîi> hôŋ nán mây mii [khray/khon] yùu <lɔɔy> sàk khon <diaw>
<in> room that NEG exist [anyone/person] exist <PTCL> about CLF <only one>

(4)-2

<thîi> hôŋ nán mây mii [khray/khon] yùu <lɔɔy> mɛ́ɛtɛ̀ɛ khon diaw
<in> room that NEG exist [anyone/person] exist <PTCL> even_CONJ CLF only one

モノ，ヒトともに，(2)と同じく存在を否定する mây mii を用い，続いて特定の対象を指示する語や不定代名詞を置く．(3)の例文は対象物が「椅子」と特定されているため普通名詞 kâwʔîi「椅子」を使用しているのに対して，(4)の例文では不定代名詞 khray もしくは普通名詞 khon の両方を使用することが可能となる． (3)-1 と(4)-1 では量的に少ないことを表す sàk「ぐらい」と diaw「1 つだけ」を類別詞とともに使用することで，全否定であることを強調している．同様に(3)-2 と(4)-2 では逆説の接続詞 mɛ́ɛtɛ̀ɛ を用いることで，「一脚も」，「一

[1] 文語では mí? という表現もある．口語では má? とも発音される．

人も」というニュアンスを付加している．強調を示す小辞 ləəy もよく用いられる．

(5) 【所在文の否定】「その本はこの部屋にない.」
nǎŋsǔuu lêm nán mây <dây> yùu <[thîi/nay/thîi nay]> hɔ̂ŋ níi
book CLF that NEG exist <in> room this

ヒトやモノの所在を表す動詞は yùu となり，否定文型は yùu の前に否定辞 mây もしくは mây dây を置く．mây は所在の否定，mây dây は(1)と同様，状態や状況が実現していないことを表している．所在場所を示すため，場所の前に thîi「に」や nay「中」，thîi nay「の中に」を付加するが，口語では非表示とすることがある．

yùu には所在を表す以外にも人を主語として「暮らす/生活する」という用法もあるが，否定辞によってニュアンスが異なる．(5)-a は「父母と一緒に暮らす」という状態や状況が実現していないことを表しているのに対して，(5)-b は主語となる発話者の意思を示すものとなる．

(5)-a「私は父母と一緒に暮らしていない.」
chán mây dây yùu kàp phɔ̂ɔmɛ̂ɛ
I_F NEG live with parents

(5)-b「私は父母と一緒に暮らさない.」
chán mây yùu kàp phɔ̂ɔmɛ̂ɛ
I_F NEG live with parents

(6) 【形容詞文の否定】「この犬は大きくない.」
<mǎa> tua níi tua mây [too/yày]
<dog> CLF this body NEG big

タイ語の形容詞は動詞述語文と同様の否定形式となり，形容詞 too「（体の部分が）大きい」もしくは yày「大きい」の前に形容詞を否定する時にも用いる否定辞 mây を置く．この例文では，tua という語が 2 回用いられているが，最初の tua は類別詞，2 番目の tua は「体格」の意となり，二重主語「象は鼻がながい」と同様の構造をタイ語でも使用する．文脈上，主語が犬であることが明らかな場合は，mǎa「犬」は非表示とすることも可能となる．

(7) 【形容詞文の部分否定】「この犬はあまり大きくない.」
<mǎa> tua níi tua mây <khɔ̂y> [too/yày] <thâwrày>
<dog> CLF this physique NEG <so> big <how much>

形容詞文の部分否定には，否定辞の後に khɔ̂y「あまり」と形容詞の後にthâwrày「いくつ」を用いるが，いずれか一方だけでも許容される．対象が犬であることがあれば，mǎa「犬」を非表示とすることも可能である．

(8) 【比較級】「この犬はあの犬より大きい.」
<mǎa> tua níi tua [too/yày] kwàa <mǎa> tua nóon
<dog> CLF this body big than <dog> CLF that

形容詞の後にkwàa「より」を置き，続いて比較の対象を置く．(7)と同様，対象が犬であることがあれば，

mǎa「犬」はいずれも非表示とすることも可能であるが，類別詞は名詞mǎaを特定するため，表示する必要がある．

(9) 【最上級】「この犬がその犬たちの中で一番大きい．」

mǎa tua níi tua [too/yày] thîisùt nay bandaa mǎa fǔuŋ nán
dog CLF this physique big the most in among dog group that

形容詞の後に最上級を示すthîisùt「最も」を置き，比較の範疇を示すにはnay bandaa「の中で」を用いる．

(10) 【自動詞文の否定】「今日はあの人は来ない．」

wanníi khon nán <càʔ> mây maa <náʔ>
today person that <AUX> NEG come <PTCL>

動詞の前に否定辞 mây を前置するが，発話者が主語「あの人」の意思を伝える意図がある場合は mây の前に意思を示す càʔ を加える他，特に口語では終結小辞 náʔ「よ」を加えるのが自然である．náʔ を付加することで，発話者の情報共有の意図を示すものとなる（ウィッタヤーパンヤーノン 2017）．

(11) 【他動詞文の否定】「あの人はその本を持って行かなかった．」

(11)-1

khon nán mây dây ʔaw nǎŋsǔɯ lêm nán pay
person that NEG take book CLF that go_DIR

(11)-2

khon nán mây ʔaw lêm nán pay
person that NEG take CLF that go_DIR

他動詞文も自動詞文と同様に動詞の前に否定辞を前置する．本例文では V1＋V2 となる動詞連続 ʔaw pay「持って行く」を用いているが，タイ語の動詞連続の否定は組み合わせる動詞の意味的特徴によって V1 の前もしくは V2 の前に否定辞を置く．本例文の場合，V1 が他動詞 ʔaw「持つ」，V2 が移動動詞 pay「行く」となり，V1 と V2 の間に目的語を入れ，V1 を否定するためには，否定辞を V1 の前に前置する．(11)-1 では否定辞として mây dây を用いて，状態や状況が実現していないことを表しているのに対して，(11)-2 のように否定辞を mây とすると，主語「あの人」の意思を発話者が対話者に伝えるニュアンスとなる．

(12) 【数量の全部否定】「全ての学生が参加しなかった．／学生は全員参加しなかった．」

(12)-1

nákrian [tháŋmòt/thúk khon] [mây dây/mây] khâwrûam
student [all/all person_CLF] NEG attend

(12)-2

nákrian [mây dây/mây] khâwrûam [tháŋmòt/thúk khon]
student NEG attend [all/all person_CLF]

(12)-3

nákrian [tháŋmòt/thúk khon] mây mii khray khâwrûam
student [all/all person_CLF] NEG exist someone attend

(12)-4

mây mii nákrian khon nǎy khâwrûam
NEG exisit student CLF which attend

(12)-1 と(12)-2 では，否定辞[mây dây/mây]によって，khâwrûam「参加する」を否定している．mây dây であれば状況説明，mây であれば意図して参加しなかった意味となる． (12)-1 と(12)-2 は数量詞を含む語の位置となるが，いずれの文でも全部否定と部分否定の両方の解釈が可能となる.全部否定のみの解釈とするには不定代名詞を用いた存在文の否定文とする．存在動詞 mii を否定辞 mây で否定し，(12)-3 では khray「だれも」，(12)-4 では nákrian khon nǎy「どの学生も」を共起させている.

(13) 【数量の部分否定】「全ての学生が参加したわけではない.」

(13)-1

mây chây wâa nákrian [tháŋmòt/thúk khon] khâwrûam
NEG that is so COMP student [all/all person_CLF] attend

(13)-2

mây chây wâa nákrian khâwrûam [tháŋmòt/thúk khon]
NEG that is so COMP student attend [all/all person_CLF]

(13)-3

mii nákrian baaŋ khon [mây dây/mây] khâwrûam
exist student some CLF NEG attend

前述の通り(12)-1 と(12)-2 でも数量の部分否定を示すことが可能であるが，部分否定のみの解釈となるタイ語文を(13)-1，(13)-2，(13)-3 で示している．(13)-1，(13)-2 は補文マーカーwâa を用いて補文化し，名詞述語の否定辞 mây chây を文頭に置き，数量詞を含む補文全体を否定することで，数量の部分否定を行っている．(13)-1 と(13)-2 には不満のニュアンスも含んだものとなるが，客観的かつタイ語として自然な表現は存在動詞 mii と「一部」を意味する数量詞 baaŋ を用いた(13)-3 となる．(12)-4 では mii を否定することで全否定としているに対して，(13)-3 では本動詞「参加する」を否定することで，「一部の学生が参加しなかった」という部分否定を示している.

(14) 【文の否定】「(私は買わなかった．しかし，決して）値段が高いというわけではない.」

(14)-1

mây chây phrɔ́ʔ <wâa> raakhaa phɛɛŋ náʔ
NEG that is so because <COMP> price expensive PTCL

(14)-2

mây chây wâa phɛɛŋ náʔ
NEG that is so COMP expensive PTCL

(14)-3

mây dây pen phrɔ́ʔ <wâa> raakhaa phɛɛŋ náʔ
NEG COP because <COMP> price expensive PTCL

(14)は名詞述語文と同じ否定形式となる．(14)-1 では mây chây を用い，補文マーカーwâa で示されている文節を否定している．本例文では「わけではない」と理由の説明も含んだ内容となっているため，原因や理由

を表す接続詞 phrɔ́ʔ を wâa の前に付加し，mây chây で否定するのは phrɔ́ も含めた文節となる．タイ語では談話上での旧情報は非表示とする傾向があり，(14)-2 がより好まれる表現となる．(14)-3 は(1)-2 と同様にコピュラ pen を用いた表現となり，mây dây pen で文節を否定する．口語では (14)-1 と(14)-3 では wâa を非表示とすることがある．

(15) 【禁止】「走るな！」

(15)-1

hâam wîŋ <náʔ>

PROH run <PTCL>

(15)-2

yàa wîŋ <[náʔ/sìʔ/dây máy]>

PROH run <PTCL>

(15)-3

mây wîŋ <náʔ>

NEG run <PTCL>

(15)-4

wîŋ mây dây náʔ

run NEG can PTCL

(16) 【他動詞文の禁止】「大きな声を出すな！」

(16)-1

hâam sòŋ sǐaŋ daŋ <náʔ>

PROH send voice loud <PTCL>

(16)-2

yàa sòŋ sǐaŋ daŋ <[sìʔ/náʔ/dây máy]>

PROH send voice loud <PTCL/PTCL/Q>

(16)-3

mây sòŋ sǐaŋ daŋ <náʔ>

NEG send voice loud <PTCL>

(16)-4

sòŋ sǐaŋ daŋ mây dây náʔ

send voice loud NEG can PTCL

禁止を示すためには，禁止を意味する hâam，yàa もしくは否定辞 mây を用い，自動詞と他動詞で用法に違いはない．(15)-1 と(16)-1 で用いている hâam に後置されるのは動詞の他にも名詞もあり，禁止事項を示す看板等で用いられる禁止要求が強い表現となる．口語では文末に行為要求の意味を有する終結小辞 náʔ を用いることで表現を和らげることが可能となる（ウィッタヤーパンヤーノン 2021）．(15)-2 と(16)-2 で用いている yàa は hâam よりも禁止要求は弱まるが，同意共感要求の機能を持つ終結小辞 sìʔ（ウィッタヤーパンヤーノン 2017）は，命令文であることをより明示する機能を有する．禁止要求の程度によって，終結小辞 náʔ や疑問小辞 dây máy も使用される．náʔ は文脈に応じて機能が変化するが、ここでは対話者への行為要求となる．可能を表す dây と疑問小辞 máy の組み合わせは「する/しないということが可能か」と対話者に質問することになり丁寧さが増す．(15)-3 と(16)-3 は，否定命令文型で禁止を表している．(15)-4 と(16)-4 は状況可能を示す助動詞 dây

を否定辞 mây によって否定し，行為要求の意味を有する終結小辞 náʔ を付加することで不許可を示している．náʔ がない場合は，「走れない/大きな声を出さない」という状況を説明する文となる（ウィッタヤーパンヤーノン 2021）．

(17) 【推量の否定】「明日は雨は降らないだろう．」

(17)-1

phrûŋníi fŏn [nâa càʔ/khoŋ càʔ] mây tòk
tomorrow rain AUX.INFER NEG fall

(17)-2

phrûŋníi fŏn mây nâa càʔ tòk
tomorrow rain NEG AUX.INFER fall

(17)-3

phrûŋníi fŏn <khoŋ càʔ> mây tòk máŋ
tomorrow rain <AUX.INFER> NEG fall PTCL.INFER

推量を示す場合は，根拠に基づく推量を示す nâa càʔ もしくは根拠が不確かな推量を示す khoŋ càʔ を動詞の前に置く．(17)-1 は動詞 tòk「降る」の前に mây が置かれると「雨が降らない」という推量を示すこととなる．(17)-2 では否定辞 mây が nâa càʔ tòk「降るはず」の前に置かれることで「降るはずがない」と推量内容を否定する．この文型では khoŋ càʔ は使用しない．(17)-3 は口語でよく使用される表現で文末に推量の終結小辞 máŋ を付加し，khoŋ càʔ との共起も可能である．

(18) 【目的節の否定】「あの人に聞こえないように，小さな声で話してくれ．」

(18)-1

phûut baw nɔ̀y khon nán càʔ dây mây dâyyin
speak weak a little person that AUX NEG hear

(18)-2

phûut bawbaw sìʔ dĭaw khon nán dâyyin
speak weak PTCL otherwise person that hear

(18)-3

yàa phûut daŋ sìʔ dĭaw khon nán dâyyin
PROH speak loud PTCL otherwise person that hear

(18)-1 が càʔ dây「～なるように」という目的を示す語を用い，日本語に最も近い形でのタイ語となる．(18)-1 はタイ語として不自然ではないが，本例文の意味を表すには，実際には(18)-2 や(18)-3 の方がより好まれる．(18)-1 は目的節内で否定辞を用いているが，(18)-2 では否定辞は用いず，主節の行為を行わない結果によるリスクを示している．(18)-3 では主節に禁止構文を用いて，禁止行為に反する結果のリスクを示す構造となる．

(19) 【否定のスコープの調節】「私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない．」

(19)-1

chán mây dây phûut yàaŋ nán phrɔ́ʔ [khít/tâŋcay/yàak] càʔ tham hây khun kròot
I_F NEG say like that because [think/intend/want] AUX make_CAUS you angry

(19)-2

chán mây dây phûut yàaŋ nán phûa càʔ tham hây khun kròot

I_F NEG say like that CONJ AUX make_CAUS you angry

(19)-3

chán mây dây [tâŋcay/yàak] phûut hây khun kròot

I_F NEG [intend/want] say CAUS you angry

(19)で示した文は，いずれも述語を否定する形式となる．(19)-1 では否定辞 mây dây で動詞句 phûut yàaŋ nán「そのように言う」を否定した上で，その理由として phrɔ́ʔ「なぜなら」以降で示し，(19)-2 では phûa 「のため」を用い目的として示しているが，「言った」行為自体を否定したことにはならず，従属節で示された理由・目的と発言の関係性を否定している．(19)-3 は発話者が [tâŋcay/yàak] phûut「意図・願望を持って言った」の中で「意図・願望」の要素のみを否定しており，「言った」行為は否定しているものではない．「あなたを怒らせる」という意図・願望は使役標示 hây を用いて示されている．(19)-3 では「そう」に相当するタイ語は含まれていないが，タイ語では談話上の旧情報は繰り返さない文が自然である．

(20) 【内の関係の連体修飾節・目的語】「私が昨日買ってきた本はどこ（にある）？」

nǎŋsǔɯ <lêm> thîi chán súɯ maa mûawaan yùu nǎy

book <CLF> REL I_F buy come_DIR yesterday exist where

内の関係の連体修飾節（目的語）では，関係詞 thîi を用いる．本と関係詞 thîi の間に類別詞 lêm があることで，本を特定することができ 1 冊の意味となる．lêm がないと本の数が不明瞭となり，1 冊以上の場合が含まれる．

(21) 【内の関係の連体修飾節・主語】「その本を持って来た人は誰（か）？」

(21)-1

khon thîi ʔaw nǎŋsǔɯ lêm nán maa khɯɯ khray

person REL take book CLF that come_DIR COP who

(21)-2

khray ʔaw nǎŋsǔɯ lêm nán maa

who take book CLF that come_DIR

内の関係の連体修飾節（主語）でも，(20)と同様に関係詞 thîi が用いられる．実際には連体修飾節を用いるよりも(21)-2 のように疑問代名詞を使う方が好まれる．

(22) 【内の関係の連体修飾節・場所】「この部屋が私たちの仕事をしている部屋です.」

(22)-1

hɔ̂ŋ níi khɯɯ hɔ̂ŋ thîi raw cháy thamŋaan <kan>

room this COP room REL we use work <together>

(22)-2

hɔ̂ŋ níi khɯɯ hɔ̂ŋ thîi ʔaw wáy cháy thamŋaan khɔ̂ɔŋ raw

room this COP room REL take for use work of we

(22)-3

hôŋ níi khuɯɯ hôŋ thamŋaan khɔ̂ɔŋ raw
room this COP room work of we

(22)-1 と(22)-2 は関係詞 thîi を用いた連体修飾節による表現となるが, (22)-1 は文節で, (22)-2 は動詞句で hôŋ「部屋」を修飾している．(22)-1 も(22)-2 とも会社，自宅などを問わず，働いている部屋を指示する場合にも使用される．(22)-3 では関係詞は用いず，所有を示す属格 khɔ̂ɔŋ を使用している文となるが，会社の建物などより広範な場所の中で自分たちの働いている部屋を指し示す意味となる．

(23) 【内の関係の連体修飾節・所有者】「足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった.」

(23)-1

kâwʔîi tua nán thîi khǎa hàk pay khâaŋ nɯŋ thíŋ pay lɛ́ɛw náʔ
chair CLF that REL leg break PFV CLF one dispose of go_DIR PFV PTCL

(23)-2

kâwʔîi tua thîi khǎa hàk pay khâaŋ nɯŋ tua nán thíŋ pay lɛ́ɛw náʔ
chair CLF REL leg break PFV CLF one CLF that dispose of go_DIR PFV PTCL

(23)-3

thíŋ kâwʔîi tua thîi khǎa hàk khâaŋ nɯŋ pay lɛ́ɛw náʔ
dispose of chair CLF REL leg break CLF one go_DIR PFV PTCL

(23)-1 と(23)-2 はともに関係詞 thîi を用いた文型となるが，(23)-1 と(23)-2 の違いは，椅子に対応する類別詞 tua と指示詞 nán の位置の違いとなる．(23)-1 ではまず kâwʔîi tua nán「あの椅子」と表示した上で thîi を用いて「あの椅子」を修飾している．それに対して(23)-2 では「足が一本折れた」ことを「椅子」の特徴の一部として捉えた上で tua nán でどの椅子であるかを特定している．(23)-3 は動詞 thíŋ を文頭に移転させ，関係節を後置させたタイ語での基本語順「(S) VO」となるため，(23)-1 と(23)-2 よりも好まれる．

(24) 【外の関係の連体修飾節】「ドアを叩いている音が聞こえる.」

(24)-1

dayyin sǐaŋ khóʔ pratuu
hear sound knock door

(24)-2

dayyin sǐaŋ [khon/khray] khóʔ pratuu
hear sound [person/someone] knock door

(24)-1 のように, 特に標識を用いず, 語順で示す形が自然であるが, (24)-2 のように, 動作主が不特定の khon「人」もしくは khray「だれか」を動詞句 khóʔ pratuu の前に置くことも許容される.

(25) 【外の関係の連体修飾節】「あの人が結婚したという噂は本当（か）？」

(25)-1

khàawlɯɯ thîi wâa khon nán tɛ̀ŋŋaan lɛ́ɛw pen rûaŋ ciŋ [rúplàaw/ʔà]
rumor REL COMP person that marry PFV COP story true Q

(25)-2

khàawlɯɯ thîi wâa khon nán tèŋŋaan lɛ́ɛw ciŋ [rúplàaw/ʔà]

rumor REL COMP person that marry PFV true Q

khàawlɯɯ「噂」の内容を関係詞 thîi と補文マーカーwâa 以降の修飾節で説明し，(25)-1 では述語部分を形式名詞的役割となる rûaŋ「話」を用いて名詞述語文とし，コピュラ pen で「噂」が真実であるかを確認する文型となる． (25)-2 は形容詞述語文となり，「噂」が ciŋ「本当」であるかを，疑問小辞 rúplàaw または ʔà で確認している．

(26) 【時間節】「私はその人が来た時にご飯を食べていた．」

chán kin khâaw yùu tɔɔn <thîi> khon nán maa

I_F eat meal PROG when <REL> person that come

従属節となる時間節の最初に時間を示す tɔɔn thîi を用いるが, thîi は非表示にすることも可能である. (26)-a のように時間節が最初来ると，時間節の対比を示す意味を持つこととなる．

(26)-a「その人が来た時は，私はご飯を食べていた．（別の人が来た時は，私はご飯を食べていなかった）」

tɔɔn <thîi> khon nán maa chán kin khâaw yùu

when <REL> person that come I_F eat meal PROG

(27) 【場所節】「私はその人が待っている所に行った．」

chán pay thîi thîi khon nán rɔɔ yùu <lɛ́ɛw>

I_F go place REL person that wait PROG <PFV>

場所節では，一般的な場所を示す thîi に関係詞 thîi を付加して修飾している．

(28) 【補文節・視覚】「私はその人が走っていったのを見た．」

(28)-1

chán hěn <thîi> khon nán wîŋ pay

I.F see <COMP> person that run go_DIR

(28)-2

chán hěn [tɔɔn/khanàʔ] <thîi> khon nán wîŋ pay

I.F see [when/while] <COMP> person that run go_DIR

(28)-1 では「見た」ものを補文マーカーthîi を用いて示している. thîi は非表示とすることも許容される. (28)-2 では thîi の前に[tɔɔn/khanàʔ]「～の時/最中」という特定の時間を指示する語を付加すると，「走っていった時は見たが，それ以外は見ていない」という対比のニュアンスも示すこととなる．

(29) 【補文節・聴覚】「昨日の夜，私は彼らがしゃべっているのを聞いた．」

(29)-1

mûakhuɯn chán dâyyin <thîi> phûakkháw khuy kan

last night I_F hear <COMP> they chat together

(29)-2

mûakhuɯn chán dâyyin [tɔɔn/khanàʔ] <thîi> phûakkháw khuy kan
last night I_F hear [when/while] <COMP> they chat together

(29)-1 では dâyyin「聞いた」の目的語が補文マーカーthîi 以降の文節となるが，会話の内容を聞いたことを示すものとなる．thîi は非表示とすることも許容され，thîi が非表示の場合は，内容を聞いた可能性，もしくは「しゃべっている声」だけを聞き内容までは聞いていない可能性の 2 通りの解釈ができる．(29)-2 では thîi の前に[tɔɔn/khanàʔ]「～の時/最中」を付加し，(28)-2 と同様に対比のニュアンスも含むこととなる．

補文マーカーが wâa となる(29)-a は「彼らがしゃべっているという話を他の人から聞いた」という伝聞となる．

(29)-a

mûakhuɯn chán dâyyin wâa phûakkháw khuy kan
last night I_F hear COMP they chat together

(30) 【補文節・知識】「私はその人が昨日ここに来たことを知っている.」

(30)-1

chán rúu rûaŋ <thîi> khon nán maa thîinîi mûawaan
I_F know topic <REL> person that come here yesterday

(30)-2

chán rúu wâa khon nán maa thîinîi mûawaan
I_F know COMP person that come here yesterday

(30)-1 では rúu「知る」の目的語として普通名詞 rûaŋ「話題」を置き，rûaŋ を修飾する関係詞 thîi 以降の修飾節で話題の内容を示している．(30)-2 では補文マーカーwâa 以降で示した文節が rúu の目的語となる．

(31) 【補文節・直接発話／間接話法】「(昨日）彼は彼が今日ここに来たと言った．／（昨日）彼は，「私は今日ここに来た」と言った.」

(31)-1

kháw [bɔ̀ɔk/phûut] wâa wanníi kháw maa thîinîi
he [say/speak] COMP today he come here

(31)-2

kháw [bɔ̀ɔk/phûut] <wâa> “ wanníi phǒm maa thîinîi lɛ́ɛw ”
he [say/speak] <COMP> today I_M come here PFV

(31)-1 の間接話法では補文マーカーwâa を用いて，補文節の内容を表示する．補文節の主語が三人称代名詞となる．(31)-2 の直接発話でも同様に補文マーカーwâa を用いても発話内容を表示するが，直接発話に対応する人称代名詞への変換と引用符が必要となる．

(32) 【内在節・従主・主主】「私はリンゴが（あの）皿の上にあったのを食べた.」

chán kin ʔéppɑ̂n lûuk <thîi> <yùu> bon caan pay lɛ́ɛw
I_F eat apple CLF <REL> <exist> on dish PFV PFV

(33) 【内在節・従主・主目】「私はネコが家に入ってきたのを捕まえた.」

chán càp mɛɛw tua thîi khâw maa nay bâan dây lɛ́ɛw

I_F catch cat CLF REL enter come_DIR in house can PFV

(32) 内在節（従主・主主）では，従属節の主語「リンゴ」を主節の動詞を後置し主節の目的語として，SVOの順とする．(33)内在節（従主・主目）も同様に従属節の主語「ネコ」を主節の動詞を後置し主節の目的語にする．目的語となる「リンゴ」と「ネコ」には，それぞれ類別詞lûuk，tuaを付加した上で，関係詞thîiで特定し，修飾している．(33)は関係詞thîiを非表示とすることはできないが，(32)の場所を示す内容の場合，関係詞thîiと所在を示す動詞yùuは非表示とすることが可能で，名詞句の形式で同内容を示すことが可能となる．

略語リスト

AUX	助動詞	auxiliary	INFER	推量	inferential
CAUS	使役	causative	NEG	否定	negation, negative
CLF	類別詞	claassifier	PFV	完結	perfective
COMP	補文マーカー	complementizer	PROG	進行	progressive
CONJ	接続詞	conjunction	PROH	禁止	prohibitive
COP	コピュラ	copula	PTCL	小辞	particle
DIR	方向動詞	directional	Q	疑問小辞	question particle
F	女性	feminine	REL	関係詞	relative

参考文献

ウィッタヤーパンヤーノン スニサー. 2021.「タイ語のモダリティ」『語学研究所論集』25 号, pp.239-252.

ウィッタヤーパンヤーノン スニサー. 2020.「タイ語の情報構造と名詞述語文」『語学研究所論集』24 号, pp.547-562.

ウィッタヤーパンヤーノン スニサー. 2017. 「タイ語話し言葉コーパスから見た「語用論的終結小辞」」『アジア・アフリカ言語文化研究』94 号, pp.111-136.

ウィッタヤーパンヤーノン スニサー. 2015.「日本人タイ語学習者の発音問題と指導方法に関する一考察」『東京外大　東南アジア学 第 20 巻』, pp.37-55.

執筆者連絡先：sunisa@tufs.ac.jp

原稿受理：2022 年 1 月 7 日